

## 令和2年度 建設施工の地球温暖化対策検討分科会 議事概要

1. 日時：令和3年3月22日 13:00～15:00

2. 会議方法：オンライン会議

3. 議事概要

事務局より資料に基づき説明があり、了承された。

なお、油圧ショベルの標準バケット山積容量（m<sup>3</sup>）0.55以上0.70未満については保留させていただきたい。

### 【委員からの主な意見（議事）】

- 燃費基準値は自動車と異なり、規制制度ではない。その上で次期燃費基準値をトップランナーをベースとして設定するのは合理的だが、少数であるから標準偏差とトップランナー値との隔たりを検討してもらった。標準偏差がトップランナー値に近いという事実があったので標準偏差に普及台数を考慮して設定したものである。従って、標準偏差をベースにメーカーが開発可能な目標値となることも踏まえて設定したものをご理解いただきたい。
- 認定された建設機械に補助制度等の現行以外の優遇制度があってもよいのではないか。
- 国策として認定開始時期のスピードアップを図っても良いのではないか。
- 規制ではないので、認定開始時期を変えないにしても早期に低燃費機械が流通するような国交省のフォローアップがほしい。
- 対象とする機械に応じて燃費基準値の単位が違ってくる。とくに、ホイールローダーの単位（g/t）は、試験における走行距離が影響することが少し分かりづらい。
- 議論いただいた内容を踏襲して進めて欲しい。

### 【委員からの主な意見（報告）】

- 「エネルギー消費量試験方法」において、問題なのは土質であると思われるが、日本が模擬試験を主張する中で諸外国はどのような回答をしているのか？
- 土質もさることながら実掘削の内容が各国で大きく異なることが一番の原因ではないかと思う。何故、実掘削を主張されるのかを教えて欲しい。
- 建設施工のカーボンニュートラルについては、バイオマス燃料等についても視野に入れると良い。